

2020年8月6日

FY2020(2021年3月期)第1四半期 決算説明会資料

株式会社島津製作所
取締役常務執行役員 山本靖則

内容

① F Y 2020 1 Q決算

② F Y 2020 1Q セグメント別業績

③ F Y 2020 通期予想

サマリー



減収増益

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、計測と医用は減収増益、産業と航空は増収増益

第1四半期として過去最高営業利益を達成

- ・新型コロナウイルス感染拡大影響を受け減収となったが、経費削減の推進や特殊要因で、第1四半期として過去最高の営業利益を達成

新型コロナウイルス感染症の影響

- ・PCR検査用検出試薬キット、回診用X線撮影装置は好調に推移
- ・自動車、電機関係は厳しく、関連製品は減収

重点機種は一体型LC、ハイエンドのGCMSが拡大

- ・新型コロナ感染症拡大影響を受け重点機種も減収となったが、医薬品向けに一体型LC、食品向けにハイエンドのGCMSが拡大

新型コロナウイルス感染拡大の影響

- ・計測：医薬品向けは堅調だが、大学・産業向けは厳しい事業環境
- ・医用：回診用X線装置はグローバルで拡大するが、病院経営の悪化などによりその他の機種は減少

事業別	概況
計測	<ul style="list-style-type: none"> ■市場：医薬品向けは堅調。大学はグローバルでラボ閉鎖が継続 自動車・航空機を中心に産業向けは厳しい事業環境が継続 ■地域：中国、ロシアで増加。日本、北米、西欧、その他アジアで減少 ■機種：LC <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品向けに一体型が好調 ・原薬・中間体の自国生産の動きによる需要拡大 ・在宅分析業務支援ソリューション（ソフトウェア）を核に分析機器のネットワーク化を推進 MS <ul style="list-style-type: none"> ・感染症関連研究予算によりアカデミアでの需要拡大 ・消毒液の分析用などにGCMSが拡大 検出試薬キット <ul style="list-style-type: none"> ・国内で感染症対策に貢献
医用	<ul style="list-style-type: none"> ■回診用X線装置 <ul style="list-style-type: none"> ・感染者の肺画像撮影のためグローバルで拡大 ■血管撮影システム、X線TVシステム <ul style="list-style-type: none"> ・病院経営悪化による、設備投資延期・見直しの影響
産業	<ul style="list-style-type: none"> ■TMPは新型コロナウイルス感染拡大影響はほとんど受けず、半導体市場拡大を受け好調 ■油圧は、フォークリフト、小型建機向けの需要低迷が継続
航空	<ul style="list-style-type: none"> ■ボーイングを中心とした旅客機の大幅減産などにより非常に厳しい事業環境

損益計算書

- 売上高 802億円 (前年差▲6億円、前年同期比▲1%)
実質 786億円 (前年差▲22億円、前年同期比▲3%)
- 営業利益 61億円 (前年差+16億円、前年同期比+36%)
実質 51億円 (前年差+6億円、前年同期比+13%)

* 収益認識基準変更影響

売上: +28億円、営業利益: +15億円
経常利益+15億円、税前純利益+15億円

	単位: 億円	1Q		前同比	
		FY2020	FY2019	差額	増減率
業績	売上高	802	808	▲6	▲1%
	*売上高 (実質)	786	808	▲22	▲3%
	営業利益	61	45	+16	+36%
	営業利益率	7.6%	5.5%	+2.1pt	-
	*営業利益 (実質)	51	45	+6	+13%
	経常利益	62	45	+17	+38%
	親会社株主に帰属する当期純利益	42	34	+7	+22%
為替	平均レート: 米ドル (円)	107.7	110.0	▲2.3	▲2%
	ユーロ (円)	118.5	123.5	▲5.0	▲4%
主要投資	研究開発費	34	46	▲12	
	設備投資額	26	34	▲8	
	減価償却費	38	33	+5	

為替影響

売上高 : ▲12億円
営業利益 : ▲5億円

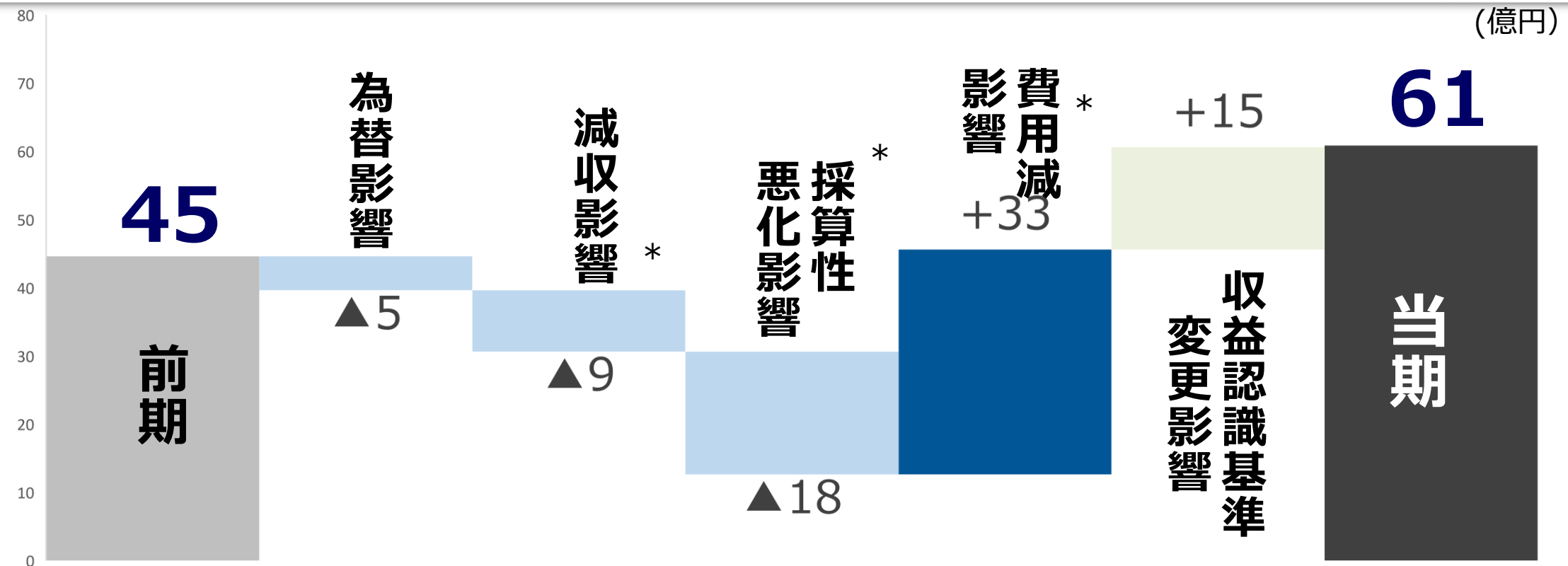
為替感応度

	売上高	営業利益
USD	12億円	4億円
EUR	2億円	0.7億円

- * 収益認識基準変更:
認識基準を出荷時から据付完了時に変更
- * 実質:
為替と収益認識基準を除外して比較
- * 減価償却費
会計基準の変更により4億円増加

営業利益増減要因

- ・ 為替影響 ▲5億円:前期と比べUSドルが2%、ユーロが4%円高
- ・ 採算性悪化 ▲18億円:計測機器の生産減、セグメントミックスの変化等による
- ・ 費用減 +33億円:経費削減の推進、営業活動の制限による減少



* 為替影響、収益認識基準の変更影響を除外

セグメント別損益

- ・計測：減収増益 ■新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、検出試薬キットは拡大したものの、多くの機種で減少。実質ベースでは減収減益
- ・医用：減収増益 ■回診用X線撮影装置は増加、それ以外の機種は低調。経費削減効果で増益
- ・産業：増収増益 ■TMPが好調に推移し、低調な油圧機器をカバーし、増収増益
- ・航空：増収増益 ■民航は厳しい状況が続く。防衛で大口案件があり、増収増益

単位: 億円	売上						営業利益						営業利益率				
	FY2020	実質	FY2019	前同比			FY2020	実質	FY2019	前同比			FY2020	実質	FY2019	前同比	
				差額	増減率	実質増減率				差額	増減率	実質増減率				増減	実質
計測	477	463	497	▲20	▲4%	▲7%	54	45	49	+5	+10%	▲9%	11.3%	9.6%	9.9%	+1.4pt	▲0.2pt
医用	131	130	134	▲3	▲2%	▲3%	0	▲1	▲5	+5	-	-	0.3%	-0.5%	-3.8%	+4.2pt	+3.4pt
産業	104	103	93	+10	+11%	+10%	10	10	4	+6	+148%	+143%	9.5%	9.4%	4.3%	+5.2pt	+5.2pt
航空	82	82	66	+16	+25%	+25%	▲0	▲1	▲1	+1	-	-	-0.5%	-0.6%	-2.1%	+1.7pt	+1.6pt
その他	9	8	19	▲10	▲53%	▲57%	2	2	3	▲1	▲42%	▲42%	15.2%	15.2%	15.3%	▲0.1pt	▲0.1pt
調整額							▲5	▲5	▲5	+0	-						
合計	802	786	808	▲6	▲1%	▲3%	61	51	45	+16	+36%	+13%	7.6%	6.4%	5.5%	+2.1pt	+0.9pt

*実質
為替と収益認識基準の影響を除外して比較

*売上は外部売上
営業利益率は外部+内部売上/営業利益で算出

① F Y 2020 1Q決算

② F Y 2020 1Q セグメント別業績

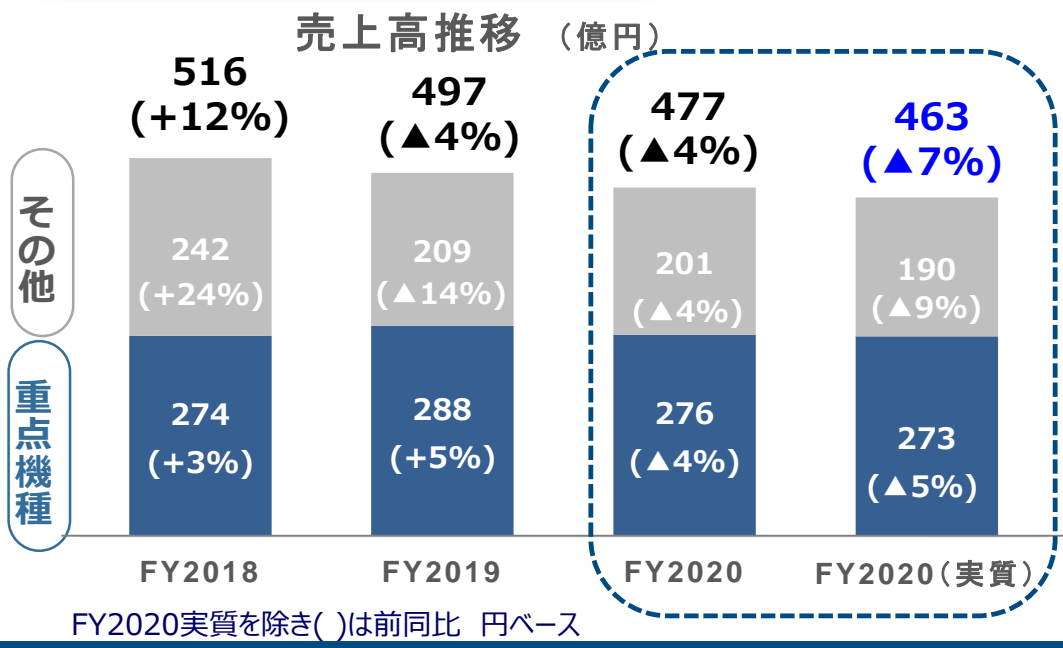
③ F Y 2020 通期予想

*重点機種： 液体クロマトグラフ（LC）
質量分析計（MS）
ガスクロマトグラフ（GC）

計測機器/機種別売上高

- 重点機種： 実質 273億円 ▲15億円（▲5%）
LCは一体型が、MSはハイエンドのGCMSが増加したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け減収
- その他： 実質 190億円 ▲19億円（▲9%）
新型コロナウイルス検出試薬キットは好調。産業向けの試験機などは設備投資の先送りで減少
- AM： 実質 173億円： +6億円(+3%) AM比率38%： +4pt *AM=アフターマーケット *実質：為替と収益認識基準の影響を除外して比較

計測機器 売上高 推移（億円）



計測機器製品

その他	 試験機	 水質分析計	 分光光度計	 新型コロナウイルス検出試薬キット
重点機種	 液体クロマトグラフ Nexera	 LCMS 8060NX	 Nexis GC-2030	 GCMS-QP2020 NX

計測機器/地域別売上高

- ・ 日本：実質▲11% 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、実質減収
- ・ 海外：実質 ▲5% 中国は回復基調だが、中国以外で新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける
- ・ 海外売上高比率：実質67% 前年同期+1pt

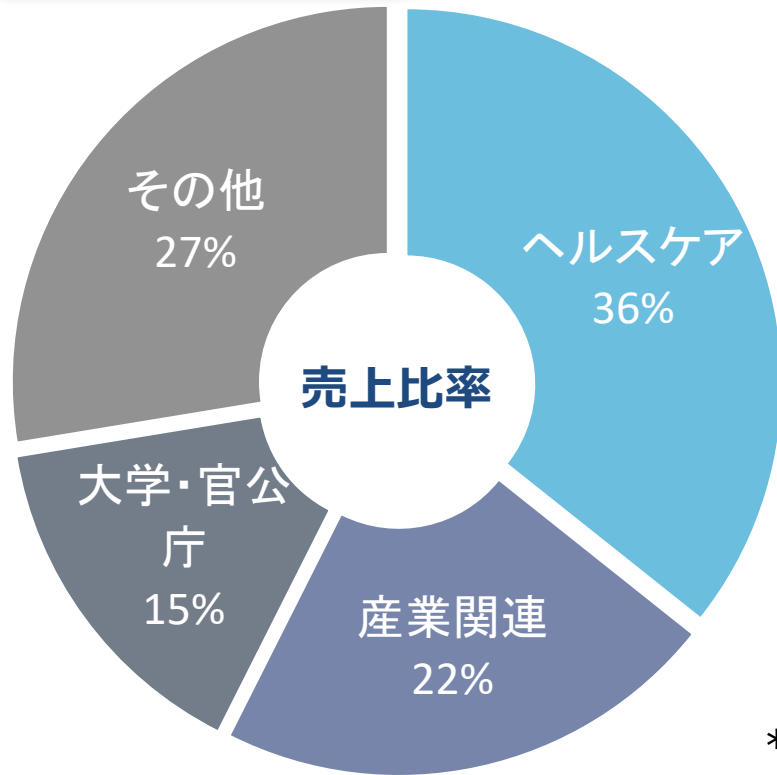
	FY2020	FY2020 実質	FY2019	増減額	増減率	実質	概況
日本	171	151	169	+2	+1%	▲11%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス検出試薬キットは、感染症対策に貢献 ・ 産業向け、大学向けなどが減少し、実質減収
北米	54	55	58	▲4	▲7%	▲4%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラボの一時的な閉鎖などにより液体クロマトグラフが減少 ・ 機能性食品分析向けに質量分析計が増加
欧州	49	51	54	▲5	▲9%	▲5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西ヨーロッパはロックダウンが影響し減収 ・ ロシアでは医薬品、食品、受託分析向けに重点機種が増加
中国	137	139	124	+12	+10%	+12%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品向けなど民需を中心に重点機種が拡大
その他 アジア	51	50	67	▲16	▲24%	▲25%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロックダウンの影響を受け大幅減

*実質：為替と収益認識基準の影響を除外して比較

計測機器/市場別売上高比率

- ・ **ヘルスケア**：医薬品向けや新型コロナウイルス検出試薬キットが好調に推移
- ・ **産業関連**：中国市場では回復基調だが、中国以外の地域で減少
- ・ **大学・官公庁**：大学向けが大幅に減少

市場別売上構成比



市場と主な業界	概況
ヘルスケア ・医薬品・食品 ・医療機関 ・受託分析業	・感染症対策関連で増加 ・医薬品分野でグローバルに増加
産業関連 ・化学・素材 ・電機 ・自動車	・中国市場では回復傾向 ・自動車市況の悪化により、多くの産業でマイナス
大学・官公庁	・大学向けがラボ閉鎖の影響などを受けグローバルで大幅に減少

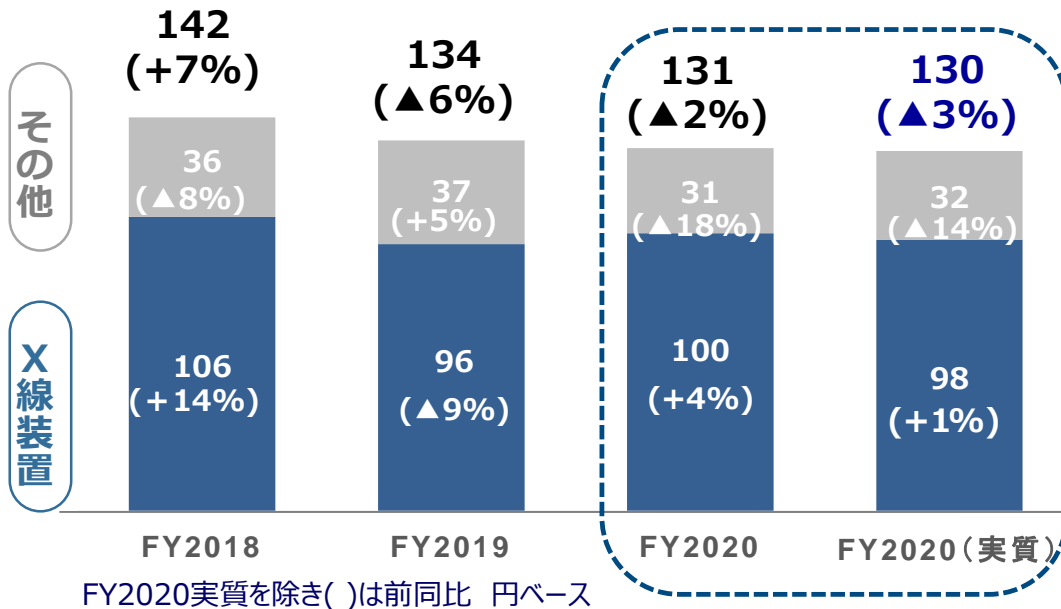
* 市場別売上は、収益認識基準の影響を算出することが困難なため、増減率は表示していません

医用機器/機種別売上高

- ・X線装置：実質 98億円 +2億円 (+1%)
感染者の肺画像撮影に回診用X線撮影装置がグローバルで拡大。血管撮影システムは減少
- ・その他：実質 32億円 ▲5億円 (▲14%)
- ・AM：実質 48億円 +1億円 (+1%) AM比率37%：+2pt

*実質：為替と収益認識基準の影響を除外して比較

医用機器 売上高 推移 (億円)

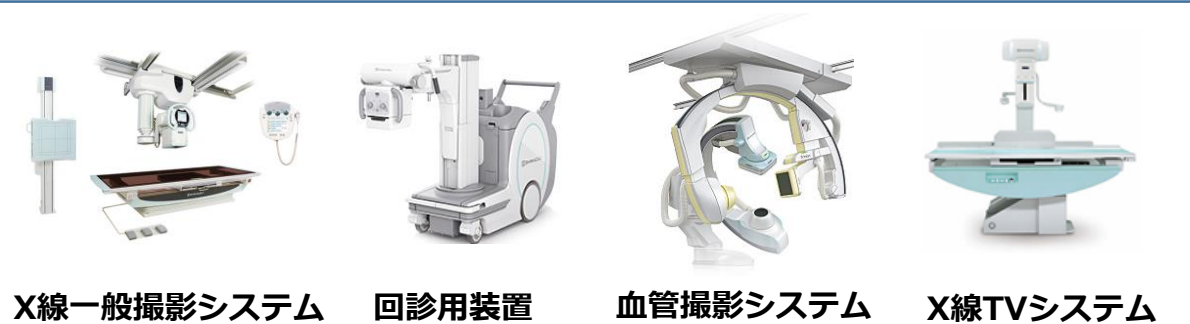


医用機器製品

その他



X線装置



医用機器/地域別売上高

- ・ 日本：実質▲15% 医療機関の収益悪化影響を受け減収
- ・ 海外：実質+15% 新型コロナウイルス感染症診断に回診用X線撮影装置が貢献
- ・ 海外売上高比率：実質47% 前年同期+7ポイント

	FY2020	FY2020 実質	FY2019	増減額	増減率	実質	概況
日本	67	68	81	▲14	▲17%	▲15%	・ 医療機関の収益悪化に伴う設備投資延期・中止などが影響
北米	20	20	17	+2	+12%	+14%	・ 回診用X線撮影装置が牽引
欧州	8	9	7	+1	+15%	+19%	・ 回診用X線撮影装置が牽引
中国	13	10	8	+6	+77%	+34%	・ 中国製回診用X線装置が牽引し増収となったが、医療機関の収益悪化、国産品優遇により厳しい事業環境は継続
その他 アジア	10	9	10	▲0	▲2%	▲9%	・ 回診用X線撮影装置は増加したものの、その他X線装置が軟調

*実質：為替と収益認識基準の影響を除外して比較

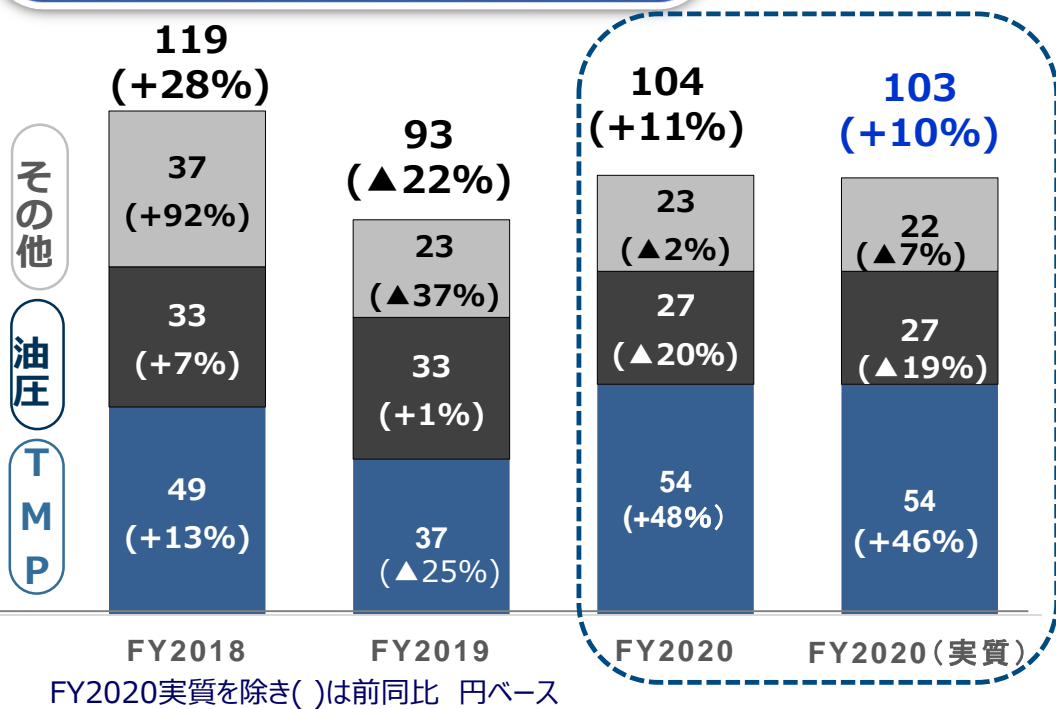
産業機器

- ・ TMP : 実質54億円 +17億円 (+46%)
- ・ 油圧 : 実質27億円 ▲6億円 (▲19%)
- ・ その他: 実質22億円 ▲1億円 (▲7%)
- ・ TMP AM: 実質9億円 +1億円 (+12%)

半導体市場の回復を受け好調継続
 フォークリフト・小型建機の需要減少
 設備投資抑制などでガラスワインダが減少
 AM比率17% ▲5pt

*実質:
 為替と収益認識基準の
 影響を除外して比較

産業機器 売上高 推移 (億円)



産業機器製品

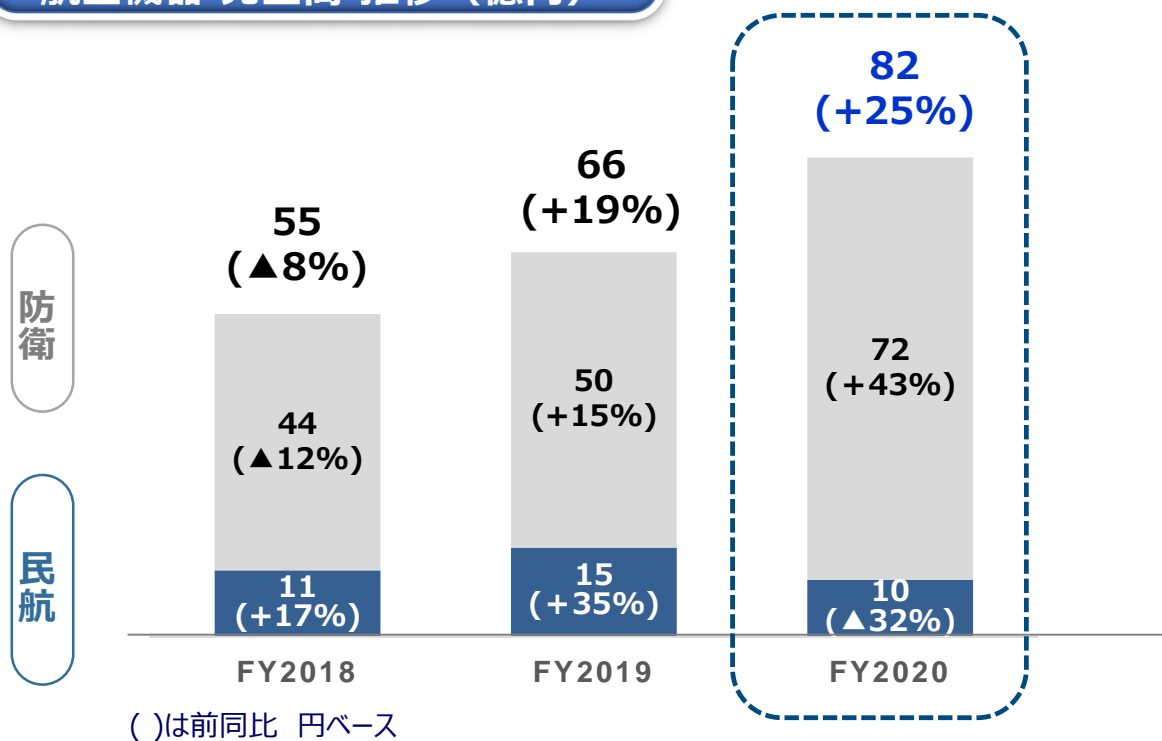
その他			
	工業炉	高速スパッタリング装置	バランス
TMP			
	ターボ分子ポンプ	油圧ギアポンプ	コントロールバルブ

航空機器

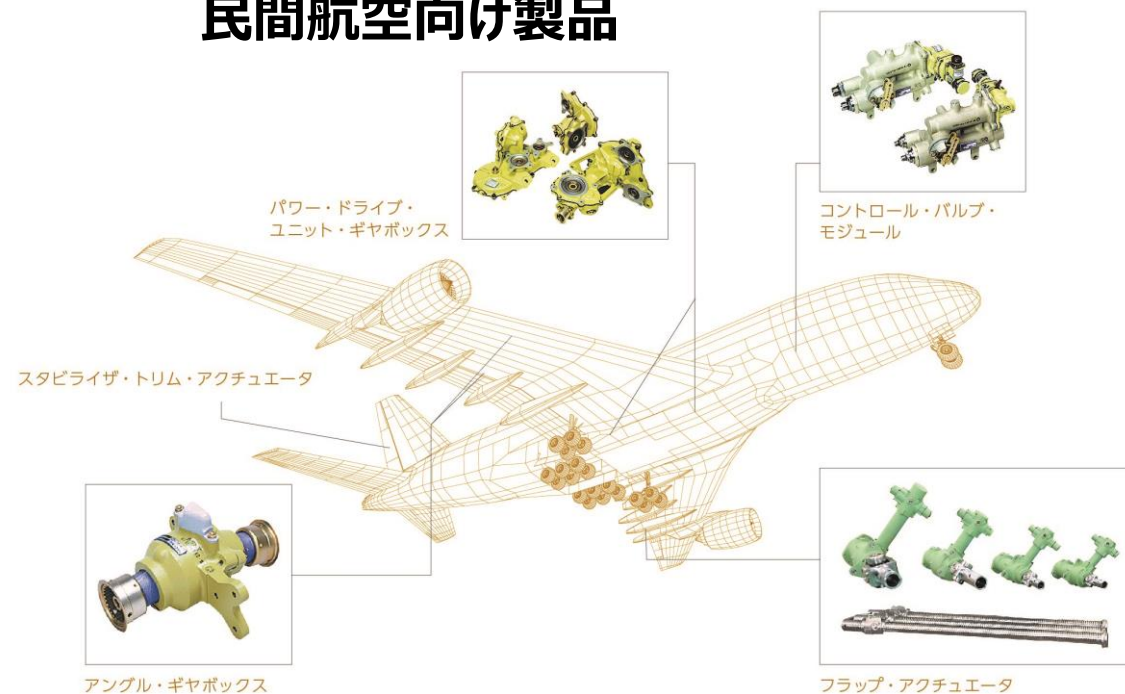
- ・ 民航： 10億円 ▲5億円 (▲32%)
 - ・ 防衛： 72億円 +22億円 (+43%)
- ボーイングを中心とした旅客機の大幅減産などにより減収
輸送機向けなどは減少したが、大口案件により増収

(航空機器は収益認識基準の変更影響はありません)

航空機器 売上高 推移 (億円)



民間航空向け製品



① F Y 2020 1 Q決算

② F Y 2020 1Q セグメント別業績

③ **F Y 2020 通期予想**

事業環境（2Q以降）

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、当初の想定よりも長引き、景気回復も遅れる可能性も出てきた

事業	概況		
計測	ヘルスケア	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス検出試薬キットは好調に推移 ■ 製薬、ウイルス研究向け拡大 ■ 公衆衛生関連（消毒液などの分析）ビジネス拡大
	大学・官庁	▲	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学はラボ閉鎖が継続、官庁も入札の遅延などが発生 ■ 今後は政府の補正予算増による感染症対策に関連する研究基盤強化などの需要拡大を見込む
	産業関連	×	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自動車、鉄鋼、機械、化学など幅広い分野で設備投資減少などにより厳しい状況
医用	回診用 X線撮影装置	▲	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス感染拡大により上期中は需要増加 ■ 上期で需要が一巡し、下期は需要が減少すると見込む
	その他 X線装置	×	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス対策以外の医用機器新規導入停滞
産業	TMP	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 半導体需要の拡大が継続
	油圧	×	<ul style="list-style-type: none"> ■ フォークリフト・小型建機の需要減
航空	民間航空	×	<ul style="list-style-type: none"> ■ 旅客機の減産が継続

FY2020 主な施策

- ・ 全社を挙げて感染症対策プロジェクトを進める
- ・ 事業・地域：医薬品・臨床市場を含めた社会における感染症対策や、リカーリング強化による事業拡大
地域別では回復基調の中国に注力
- ・ 体質改善：管理可能な経費や製造コストの削減、設備投資計画の見直しなどを計画通り継続する

事業	主な施策
計測	・感染症の検査・診断に対する研究開発、製品・サービス開発の強化(感染症対策プロジェクトの推進)
	・新型コロナウイルス感染症対策として研究開発予算増額や経済活性化対策による需要増の取り込み
	・中国における薬典改定需要の取組み強化
	・医薬品の原薬の自国生産回帰に伴う計測事業需要増の取組み
	・リカーリング事業の強化
医用	・回診用 X線撮影装置の更なる拡販
	・リモートによるサービス・サポート強化
産業	・T M P の半導体製造装置への新規採用に向けた提案強化
	・油圧製品の海外強化、新製品のフォークリフト・小型建機メーカーへの提案強化
航空	・新事業（試験検査ビジネス、水中光無線通信）への取組みを強化
体質改善	主な取り組み
投資	・設備投資の見直し、採用計画の適正化
研究開発	・研究開発テーマの優先順位付け
その他	・製造コストダウンや管理可能経費の削減

FY2020 通期予想

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響が依然として収束の気配を見せておらず、グローバルで厳しい経済環境が続くと予想
- ・営業活動の制限が続き、サービス員の活動も制限されるため、受注・売上の進捗が不透明
⇒ 5月20日に公表した業績予想を維持

		通期		前期比	
単位：億円		FY2020	FY2019	差額	増減率
業績	売上高	3,400	3,854	▲454	▲12%
	営業利益	220	418	▲198	▲47%
	営業利益率	6.5%	10.9%	▲4.4pt	-
	経常利益	220	427	▲207	▲48%
	親会社株主に帰属する当期純利益	160	318	▲158	▲50%
為替	平均レート：米ドル（円）	105.0	108.8	▲3.8	▲3.5%
	ユーロ（円）	115.0	120.9	▲5.9	▲4.8%
主要投資	研究開発費	160	169	▲9	
	設備投資額	120	177	▲57	
	減価償却費	150	133	+17	

為替影響

売上高 : ▲57億円
営業利益 : ▲19億円

為替感応度

	売上高	営業利益
USD	12億円	4億円
EUR	2億円	0.7億円

* 減価償却増：会計基準変更の影響約16億
(リース基準変更 賃借料→減価償却費)



SHIMADZU

Excellence in Science



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673 E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

計測機器/重点機種前同比

	FY2018					FY2019					FY2020
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
全体	+12%	+3%	+3%	+2%	+6%	▲4%	+10%	+4%	▲11%	+1%	▲7%
重点機種	+4%	+0%	+8%	+2%	+3%	+5%	+7%	+5%	▲10%	▲1%	▲5%

*重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析計（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

* FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較

計測機器/地域別売上高前同比

国	FY2018					FY2019					FY2020
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	+15%	▲1%	▲4%	▲1%	+1%	▲12%	+21%	+0%	▲5%	+1%	▲11%
北米	+17%	+14%	+9%	+3%	+10%	+4%	▲5%	+16%	+4%	+5%	▲4%
欧州	+11%	+7%	+19%	+8%	+12%	+1%	+19%	+2%	▲2%	+5%	▲5%
中国	+10%	+6%	+3%	+9%	+7%	▲8%	▲4%	+4%	▲40%	▲12%	+12%
その他アジア	▲2%	▲1%	+13%	▲2%	+4%	+19%	+11%	+8%	▲10%	+6%	▲25%
インド	+6%	▲7%	+4%	▲9%	▲3%	+11%	▲3%	+27%	▲5%	+7%	▲35%

* インドはその他アジアの内数

* FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較

医用機器/地域別売上高前同比

国	FY2018					FY2019					FY2020
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	▲1%	+16%	+19%	+6%	+10%	+6%	+30%	▲2%	▲5%	+7%	▲15%
北米	+17%	▲3%	▲33%	▲24%	▲12%	▲24%	▲17%	+5%	+7%	▲9%	+14%
欧州	+190%	+31%	+22%	▲1%	+34%	▲26%	▲6%	+2%	▲8%	▲9%	+19%
中国	+1%	▲14%	▲5%	▲15%	▲9%	▲33%	+5%	▲26%	+13%	▲8%	+34%
その他アジア	+11%	▲2%	+45%	▲28%	+6%	▲8%	+3%	▲16%	+34%	▲0%	▲9%

* FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較

産業機器/機種別売上高前同比

	FY2018					FY2019					FY2020
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
TMP	+14%	+0%	▲15%	▲29%	▲9%	▲25%	▲26%	+10%	+48%	▲1%	+51%
油圧	+6%	+1%	+4%	+1%	+3%	+2%	+1%	▲12%	▲5%	▲4%	▲19%
その他	+92%	▲9%	▲1%	+36%	+21%	▲37%	+19%	▲11%	▲1%	▲8%	▲0%

* FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較

アフターマーケット(AM)比率

計測

	FY2018					FY2019					FY2020
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
AM売上前同比	+18%	+14%	+15%	+11%	+14%	+3%	+6%	+6%	▲2%	+4%	+3%
AM比率	31%	31%	31%	29%	30%	34%	30%	32%	32%	32%	38%

医用

	FY2018					FY2019					FY2020
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
AM売上前同比	+4%	▲2%	+5%	+2%	+2%	+5%	+13%	▲3%	+2%	+4%	+1%
AM比率	32%	29%	30%	29%	30%	35%	28%	31%	30%	30%	37%

TMP

	FY2018					FY2019					FY2020
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
AM売上前同比	+49%	+31%	+26%	+19%	+29%	+13%	+9%	▲1%	+12%	+8%	+12%
AM比率	14%	18%	20%	24%	19%	22%	27%	18%	18%	21%	17%

* FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較